



新たな10年の第一歩を踏み出すに当たって

鹿児島県工業技術センター

所長 廣末英晴

昨年は当工技センターの創立10周年を記念して、技術立県シンポジウム、10周年記念誌の発刊、10周年記念講演会を行い、皆様方のご協力により無事成功裡に終えることができました。皆様方のご支援、ご協力に対しましてこの紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

さて今年度は工技センターが新たな10年の第一歩を踏み出す年であるとともに、県総合基本計画の第3期実施計画が「うるおいと活力に満ちた鹿児島の創造」を基本理念としてスタートする年でもあります。同計画では、目指すべき鹿児島の将来目標として「魅力あふれる南の拠点かごしま」、「多様な活力産業圏かごしま」、「健やかで心豊かな生活先進県かごしま」を掲げ、具体的にこれらの将来目標を達成するために15の戦略プロジェクトを設定しています。この15の戦略プロジェクトの中で当工技センターが直接関係するものが「創造性あふれる新規産業の創出と地域産業の高付加価値化」を目指す「活力産業創造プラン」であります。

1 10年度に取り組むべき課題

この活力産業創造プランの実現を目指して当工技センターとして運営の基本である研究開発と技術支援について下記2点について取り組みを強化したいと考えています。

①研究テーマの選定

研究を進めるに当たって研究テーマ選定の重要性は言をまちません。今年度からは従前にもまして「テーマは地元から、成果は地元へ、そしてレベルは世界に通じること」を目指して、センター内に研究テーマ選定委員会を発足させ、新規研究テーマの審査を行うことにしています。また、産学官から構成される研究開発推進委員の方々へも新規テーマについて説明し、ご意見をいただき、最終的にはこの研究テーマ選定委員会で新規テーマの選定、評価を行いたいと考えています。

②技術支援事業内容の公表

当工技センターに課せられたもう一つの役割であ

る技術相談・指導、依頼試験・分析、技術情報提供、人材育成、コーディネート機能などの技術支援事業を折に触れてわかりやすく県民の皆様へお知らせしていきたいと考えています。特に技術相談・指導を通じて企業に直接的に貢献し成果を上げた内容については企業の方々のご協力を頂きながらペーパーに簡潔にまとめ、公表していきたいと思っています。

2 今年度の主な事業計画

今年度からスタートする新規事業としては、「川辺仏壇の新設計・製造システムに関する研究」があります。ここでは、CAD、CGを用いた金仏壇デザイン設計手法を構築し、木地、彫刻などの7工程部門間をコンピュータネットワークで結び、同時並列設計システムと機械化の遅れた彫刻、宮殿の加工工程を改善し同時並列製造システムを確立することを目指して川辺仏壇業界の方々と一緒に協力して事業を推進することにしています。

また、「中小断面集成材の製造システムの開発」の県単プロジェクトが昨年度終了しましたが、平成10年度と11年度の2年間をかけて、集成材の実用化を目指して「集成材の製造・利用技術の実用化研究」を行います。ここでは、産学官から構成される集成材の製造および利用技術研究会の二つの研究会を立ち上げ、スギ中目材の地域完結型集成材生産・利用システムの確立を目指します。

この他、中小企業庁の地域産学官共同研究事業で行っている「強誘電体インテリジェント材料の研究開発」は2年目に入り、昨年度調べた基板上への強誘電体材料の成膜に加えて、今年度は薄膜化した強誘電体の電気特性と成膜条件、熱処理条件との関係を明らかにすることを目指しています。

これら以外にも、工業基盤技術研究事業として14テーマ、単独研究事業として9テーマを行い、地域資源の高度活用からバイオテクノロジー、エレクトロニクス、新素材まで幅広く取り組む予定であります。各事業の推進に当たりまして、皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。